














週間市場レポート (2020年9月14日~9月18日)

1) 先週の市場動向

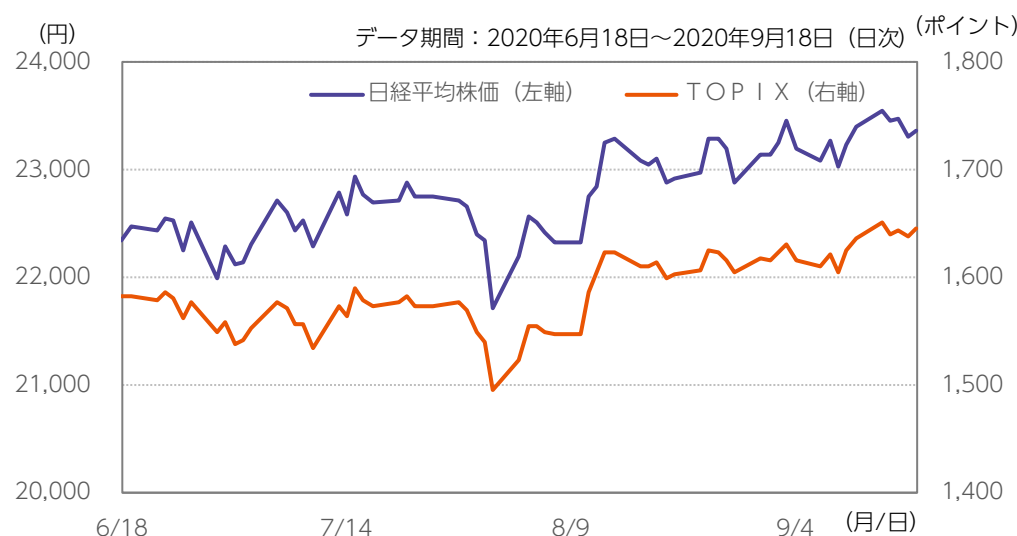
指数名	国	前週末 2020/9/11	先週末 2020/9/18	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		23,406.49	23,360.30	▲ 0.20 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,636.64	1,646.42	0.60 ↑
ダウ工業株30種平均 (ドル)		27,665.64	27,657.42	▲ 0.03 ↓
S & P500種指数		3,340.97	3,319.47	▲ 0.64 ↓
ユーロ・ストックス50指数		3,315.81	3,283.69	▲ 0.97 ↓
S & P/ASX300指数		5,838.69	5,851.42	0.22 ↑
上海総合指数		3,260.35	3,338.09	2.38 ↑
MSCI AC アジア (除く日本)※		880.60	890.57	1.13 ↑
東証REIT指数		1,694.43	1,694.01	▲ 0.02 ↓
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		673.71	671.89	▲ 0.27 ↓
ASX300 REIT 指数		1,275.10	1,299.20	1.89 ↑
グローバルREIT (除く日本)※		158.52	158.76	0.15 ↑
日本10年国債 (%)		0.027	0.015	▲ 0.012 ↓
米国10年国債 (%)		0.666	0.694	0.028 ↑
ドイツ10年国債 (%)		▲ 0.481	▲ 0.485	▲ 0.004 ↓
英国10年国債 (%)		0.182	0.183	0.001 ↑
ドル/円		106.16	104.57	▲ 1.50 ↓
ユーロ/円		125.76	123.83	▲ 1.53 ↓
英ポンド/円		135.85	135.08	▲ 0.56 ↓
豪ドル/円		77.32	76.23	▲ 1.42 ↓
フィラデルフィア半導体指数		2,136.37	2,160.97	1.15 ↑
WTI原油先物 (ドル)		37.33	41.11	10.13 ↑
CRB 指数		146.41	151.54	3.50 ↑
アレリアンMLP指数		656.12	657.97	0.28 ↑

出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

2) 日本の株式・債券市場

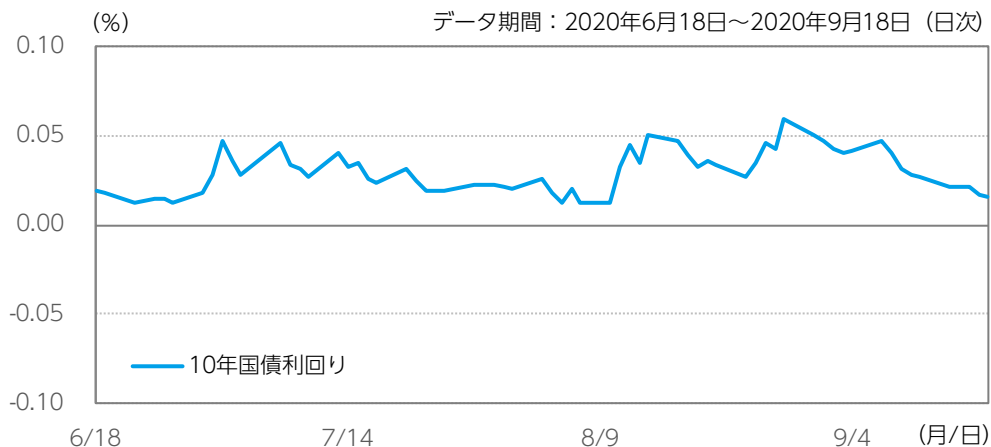
◀ 株式 ▶

日本株式市場 (日経平均株価) は、前週末比でほぼ横ばいとなりました。週初は、新型コロナワクチンの臨床試験再開などワクチン開発に関する前向きなニュース等を好感して、およそ7か月ぶりの高値をつけました。その後は、およそ2か月ぶりに104円台まで円高が進んだこと等を受けて輸出関連株を中心に業績悪化が懸念され下落しました。自民党総裁選で菅前官房長官が勝利し、アベノミクスが継続されるとの安心感もあったものの、週間ではほぼ横ばいとなりました。



≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比でやや低下しました。日米の金融政策決定会合は日米ともにほぼ想定通りの結果となり、市場への影響は限定的でした。超長期ゾーンの需給悪化懸念が解消されたこと等を受けて、買いが優勢となり金利は小幅な低下となりました（価格は上昇）。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

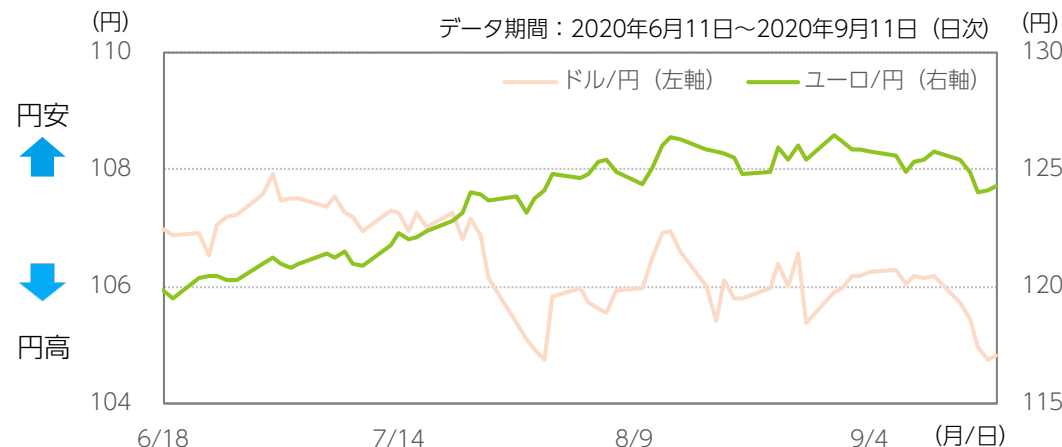
米国株式市場（NYダウ）は前週末比でほぼ横ばいとなりました。米国半導体大手や米国バイオ医薬品メーカーによる企業買収の報道や、ワクチン開発の進展期待から週初は上昇しました。週央の米連邦公開市場委員会（FOMC）はほぼ想定通りの結果となり、市場への影響は限定的でした。週末にかけてハイテク株を中心とした売りに押され、下落基調となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。米連邦準備制度理事会（F R B）による米国のゼロ金利政策の長期化観測が強まったことなどから、週を通じて円買い米ドル売りが優勢となりました。



5) 今週の見通しについて

先週の米国株式市場は、米国半導体大手や米国バイオ医薬品メーカーによる企業買収の報道などから上昇してスタートしたものの、週末は再びハイテク株を中心とした調整売りに押され、週間ではほぼ横ばいとなりました。これまで相場をけん引してきたハイテク株の売りが優勢となったことが足元の米国株式の下落要因の一つとして挙げられます。市場ではFOMCの結果を受けて低金利が長期化するとの期待からハイテク株の調整は一巡したとの声もありました。しかし、ハイテク株の割高感は解消されておらず、再び売りが優勢となっており、今後も不安定な値動きが続くことが予想されます。

今週の米国株式市場は、感染が再拡大している欧州でのロックダウン（都市封鎖）再導入や米議会の追加経済対策成立がさらに遅れるとの懸念から週初に大きく下落しています。パウエルFRB議長の議会証言で株価はやや持ち直したものの、それ以外には目立った経済指標の公表や重要イベントもないため、材料難から方向感に欠ける展開となりそうです。



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

NISSAY
ASSET MANAGEMENT

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120 - 762 - 506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>